

別紙 1

## 論文審査の要旨

報告番号	㊥・乙 第 2948 号	氏 名	船木 俊孝
論文審査担当者	主査 田中 和生 教授		
	副査 板橋 家頭夫 教授		
	副査 九島 巳樹 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>近年抗菌薬耐性 <i>Acinetobacter baumannii</i> が院内感染原因菌として急増している。特にカルバペネム耐性 <i>A. baumannii</i> は臨床現場で問題となることが多く、当院でもアウトブレイクを引き起こしており、その分子疫学解析は重要な研究課題である。本研究では、882 株の <i>Acinetobacter</i> species の中で、カルバペネム耐性を示し、<i>bla</i><sub>OXA51</sub> 遺伝子を保有していた 22 株の <i>A. baumannii</i> について分子疫学解析を行った。</p> <p>OXA 型 <math>\beta</math> ラクタマーゼは <i>ISAbal-bla</i><sub>OXA51</sub> が 7 株、<i>ISAbal-bla</i><sub>OXA23</sub> が 11 株、<i>bla</i><sub>OXA23</sub> 遺伝子が単独で 2 株検出された。Metallo-<math>\beta</math>-lactamase は <i>ISAbal25-bla</i><sub>NDM1</sub> が 1 株検出された。MLST 解析の結果、22 株のうち 18 株が世界流行株である CC92 に属していた。</p> <p>本研究でカルバペネム耐性 <i>A. baumannii</i> は多様な薬剤耐性機構を有することが解明された。当院で検出された株の多くは世界流行株である CC92 に属したが、一方で CC92 に属さない ST 型もあり多様な伝播経路も示唆された。</p> <p>これらの知見は、高いオリジナリティーと学術的価値を有し、学位論文に相当すると判断した。本研究の解析結果が院内及び院外での今後の感染拡大防止の基本情報となることが望まれる。</p> <p>論文題名：Molecular Epidemiology of Carbapenem-Resistant <i>Acinetobacter baumannii</i> Isolated at Showa University Hospital, 2011-2016 (2011 年から 2016 年において昭和大学病院で分離されたカルバペネム耐性 <i>Acinetobacter baumannii</i> の分子疫学解析)</p> <p>掲載雑誌名：臨床病理 (65 巻・10 号・1073 頁・2017 年)</p>			

(主査が記載、500 字以内)